

歯科材料 5 歯科用接着充填材料  
管理医療機器 歯科充填用コンポジットレジン 70847002  
ビューティフィル バルク フロー

**【禁忌・禁止】**

本材又はメタクリル酸系モノマーに対して発疹、皮膚炎等の過敏症の既往歴のある患者には使用しないこと。

\* **【形状・構造及び原理等】**

[成分]

性状	成分
ペースト	ガラス粉、Bis-GMA、UDMA、Bis-MPEPP、TEGDMA、反応開始材、着色材、その他

色調: 2色 (Universal、Dentin)

[原理]

本材は、光重合型の歯科充填用コンポジットレジンであり、可視光線 (400~500nm) の光エネルギーで重合硬化する。

\* [仕様]

JIS T 6514: 2015 「歯科修復用コンポジットレジン」  
タイプ 1 (咬合面を含む) クラス 2 (光重合型) による。  
X線造影性は同じ厚さのアルミニウム以上  
(象牙質の X線造影性以上を示す)

**【使用目的又は効果】**

- 1) 使用目的  
口腔内での歯の窩洞・欠損の成形修復 (根管内への適用を除く。) に用いる。
- 2) 適応症例  
臼歯部 I 級窩洞及び II 級窩洞におけるベースライニング  
臼歯部 (咬合面を含む) における小さな窩洞の充填修復

[使用目的又は効果に関連する使用上の注意]

【使用方法等】の [本材に使用する歯科重合用光照射器と光照射時間] に記載した歯科重合用光照射器と同等の放射照度を有する歯科重合用光照射器を使用すること。他の歯科重合用光照射器等を使用する場合は、付属の添付文書等を参考に本材に適した照射時間を確保すること。

\* **【使用方法等】**

\* [本材に使用する歯科重合用光照射器と光照射時間]

- 1) ハロゲン照射器  
ハロゲンランプを光源とし、有効波長域 400~500nm の放射照度が 500mW/cm<sup>2</sup> 以上である歯科重合用光照射器
- \* 2) LED 照射器  
青色 LED (照射器発光スペクトルに単一ピークあり) を光源とし、有効波長域 440~490nm の放射照度が 1000mW/cm<sup>2</sup> 以上である歯科重合用光照射器

歯科重合用光照射器による光照射時間と光硬化深度

色調	光硬化深度	歯科重合用光照射器	
		ハロゲン照射器	LED 照射器
Universal	4.0mm	20 秒	10 秒
Dentin		40 秒	20 秒

[使用方法]

- 1) 直接充填修復  
歯面清掃  
歯面に付着したプラークや汚れを取り除きます。  
シェード選択  
歯面が濡れた状態で、表層の充填に用いる歯科充填用コンポジットレジンのシェードガイドを用いて色調を選択します。  
窩洞形成  
通法に従って窩洞を形成します。

防湿

ラバーダム等を用いて防湿を行います。  
マトリックスバンドの装着  
隣接面を含む窩洞においては、マトリックスバンドを装着します。装着方法は、マトリックスバンドの添付文書等に従ってください。

\* 歯髄保護

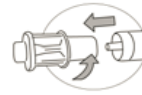
露髄又は窩洞が歯髄に近接した場合は、水酸化カルシウム製剤等を用いて歯髄保護を行います。

接着操作

歯科用象牙質接着材の添付文書等に従って、接着操作を行います。

本材の準備

下記の手順にて付属のニードルチップをシリンジ先端に正しく取り付けます。



シールドキャップを回しながら引き抜きます。



ニードルチップをシリンジ先端部に挿入後、時計回りに回してしっかりと固定します。

\* 充填

窩洞の咬合面よりも 2mm 低い位置まで本材をシリンジから直接充填します。気泡の混入を防止するため、充填は窩底部から始め、本材を填入しながらニードルチップ先端を徐々に引き上げます。窩洞が深い場合は、約 4mm ごとに数回に分けて充填・光重合を行います。

\* 重合

歯科重合用光照射器を用いて光照射を行い、光重合させます。なお、光照射時間は「歯科重合用光照射器による光照射時間と光硬化深度」に従ってください。また、修復部位の表面積が大きい場合は数回に分けて上記の光照射を行い、光重合させます。

表層面の形成

硬化させた本材の上に臼歯部修復に対応した歯科充填用コンポジットレジン積層充填します。重合後、通法により形態修正、研磨を行います。

2) 間接修復におけるベース/ライニング

窩洞形成

通法に従って窩洞を形成します。

防湿

ラバーダム等を用いて防湿を行います。

\* 歯髄保護

露髄又は窩洞が歯髄に近接した場合は、水酸化カルシウム製剤等を用いて歯髄保護を行います。

接着操作

歯科用象牙質接着材の添付文書等に従って、接着操作を行います。

本品の準備

付属のニードルチップをシリンジ先端に正しく取り付けます。

\* 充填 (填入)

本材をシリンジから窩洞に直接充填します。気泡の混入を防止するため、充填は窩底部から始め、本材を填入しながらニードルチップ先端を徐々に引き上げます。4mm よりも厚く充填する場合は、約 4mm ごとに数回に分けて充填・光重合を行います。

重合

歯科重合用光照射器を用いて光照射を行い、光重合させます。なお、光照射時間は「歯科重合用光照射器による光照射時間と光硬化深度」に従ってください。また、修復部位の表面積が大きい場合は数回に分けて上記の光照射を行い、光重合させます。

#### 印象採得

アルコール綿球等を用いて表面の未重合層の除去を行った後、通法に従って、印象採得及び咬合採得を行います。また、窩洞の形態修正が必要な場合には、窩洞の修正を行った後、通法に従って、印象採得及び咬合採得を行います。

#### 暫間修復

通法に従って、暫間修復を行います。

#### 補綴物の装着

暫間修復物を完全に除去後、通法に従って補綴物を窩洞に合着します。

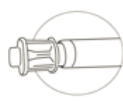
#### [ 使用方法に関連する使用上の注意 ]

- \* 1 ) 本材の色調は、必要に応じてビューティフィル パルク シェードガイドで確認すること。
- 2 ) ユージノール系の材料は、硬化・接着を阻害する可能性があるので使用しないこと。
- \* 3 ) レジン系の仮封材は、硬化した本材に接着する可能性があるため、歯科用分離材を塗布してから使用すること。
- 4 ) 本材を冷蔵庫で保管している場合は、使用する前に室温に戻してから使用すること。
- \* 5 ) 本材を使用する際は、松風ニードルチップ(太)を用いること。
- \* 6 ) 歯科重合用光照射器を用いた照射時において、術者は照射光の直視を避け、保護眼鏡や遮光板等を使用すること。また、術者は患者の目に照射光が直接当たらないよう保護すること。
- \* 7 ) ニードルチップは感染防止のため、同一の患者のみに使用し、他の患者への再使用はしないこと。
- 8 ) 使用後ニードルチップを破棄し、以下のいずれかの方法にて本材を保管すること。



保管方法

新しいニードルチップを装着後、その先端部にシールドキャップ[反対側]を装着して保管します。



保管方法

シリンジ先端部にシールドキャップを装着して保管します。

- \* 9 ) ニードルチップを交換する際は、清潔な医療用(歯科用)手袋を着用すること。
- \* 10 ) 使用後は感染防止のため、シリンジ及びシールドキャップをガーゼ等を用いてアルコールで清拭し、確実に蓋をすること。その際、ペーストにアルコールが混入しないよう注意すること。歯科重合用光照射器も感染防止のためアルコールで清拭すること。

#### 【使用上の注意】

##### [ 重要な基本的注意 ]

- 1 ) 本材の使用により発疹、湿疹、発赤、潰瘍、腫脹、かゆみ、しびれ等の過敏症状が現れた患者には使用を中止し、医師の診察を受けさせること。
- 2 ) 本材の使用により発疹、湿疹、発赤、潰瘍、腫脹、かゆみ、しびれ等の過敏症状が現れた術者は使用を中止し、医師の診察を受けること。
- 3 ) 本材又はメタクリル酸系モノマーに対して発疹、皮膚炎等の過敏症の既往歴のある術者は使用しないこと。
- 4 ) 本材との接触による過敏症を防ぐため、医療用(歯科用)手袋及び保護眼鏡の着用等の防護措置を執ること。また、口腔軟組織や皮膚に付着した場合には、すぐにアルコール綿等で拭いた後、大量の流水で洗浄すること。なお、医療用(歯科用)手袋は本材の直接的な接触を防ぐが、一部のモノマーが短時間のうちに浸透することが知られているので、本材が付着した場合は直ちに手袋を捨て、流水で充分洗浄すること。
- 5 ) 本材が万一目に入った場合には、すぐに大量の流水で洗浄し、眼科医の診察を受けること。

#### 【保管方法及び有効期間等】


##### [ 保管方法 ]

- ・本材は、高温、多湿、直射日光、火気等を避けて、室温(1~30℃) 暗所で保管すること。
- ・本材は歯科の従事者以外が触れないように適切に保管・管理すること。

##### [ 有効期間 ]

本材の使用期限は包装に記載のとおり。

[ 当社データによる ]

(例)  YYYY-MM-DD は 使用期限 YYYY年 MM月 DD日を示す)

#### 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者 株式会社 松風  
住所 〒605-0983  
京都市東山区福稲上高松町 11  
電話番号 075-561-1112